

悪堕ちヒロインに堕とされる2

・怪人のお姉ちゃんがバブバブ催眠で甘やかし洗脳して上げる

プロローグ

「今日も、悪の組織との戦いお疲れさま。怪我してない？　もうこんなに汚れて……大丈夫って、いつもそんなことばかり……」

「家族もみんな、組織に殺されてしまって、今のお姉ちゃんには、弟のアナタだけなのよ。もし何かあったらって思うと、心配で」

「ごめんなさい……変なこと言ってしまって、ベテランの正義の味方であるアナタが組織の怪人にやられてしまうなんて、ありえないものね。お姉ちゃん、ちょっと考えすぎよね」

「ゆっくり休んでね」

「はい、いつものサンドイッチとコーヒー」

「お姉ちゃんのタマゴサンド、大好きだものね。これを食べて、明日からも頑張って」

「コーヒーも美味しいでしょ。いつもより甘いのは、特別製のミルクを使ってるからお姉ちゃんが心をこめて入れたコーヒーなんだから、最後まで、ちゃんと飲んでね」

「ね、ここのところ、悪の組織の攻勢が激しくなってきたわよね？」

「ベテランの正義の味方さんたちが次々にやられてしまってるって話だし、アナタに、もしものことがあったらお姉ちゃん、どうしたらいいか……」

「ホントに心配なのよ……だからね、お姉ちゃんいいことを思いついたの。んふふ」

「それが何かって？ んふ、すぐにわかるわよ。あら、どうしたの？ 身体を震わせてさっきの戦いの疲れがでたのかしら？」

「ほら、お姉ちゃんが肩を貸してあげるから少し休みましょ。はい。んんっ」

「アナタに肩を貸すなんて、子供の時以来」

「昔は小さかったのに、今は私よりも高くなっちゃって、体重も倍ぐらい違うのかしら」

「でも、やっぱり弟だから、ちょっと重いけどお姉ちゃんでも運べちゃいそうね。ふふふ」

「……それにしても、うまく効いてきたみたい」

「え、こっちのこと。気にしないで」

「アナタが休めるようにお薬が効いてきただけよ。んん、んしょんしょつ、はい、お姉ちゃんのお部屋よ。こっちのほうが近いし、アナタの万年敷き布団よりベッドで休んだ方がいいわよ」

「大丈夫、心配いらないから」

「はい、お姉ちゃんベッドに到着♡」

「ん、どうしたの変な顔して」

「それは… アナタを運んでくるの、大変だったけれど、大切な弟くんを思えば、お姉ちゃんにできないことはないの。息切れもしてないの、そんなにおかしいかしら」

「それが弟くんにはわからない、お姉ちゃんパワーなのです」
「な～んてね、ほら、ゆっくり休んでね。んふふふッ」

1 日目

じゃ、身体をラクにして。あなたはベッドで寝たままでいいのよ」

お洋服を脱ぎぬぎしましょう……んしよ、はい、上着を上手に脱げたわね」

えらいわ♡」

どうしたの变な顔して、昔はお姉ちゃんと一緒にお着替えしていたよね。私は、いつもの私よ♡
アナタの、アナタだけのミナト姉さんよ」

もう、疑りぶかいわねえ。昔はもつと素直なコだったのに正義の味方さんになってから、大変だったのね」

日々の戦いで変わっていくアナタが心配で、お姉ちゃん、悪の組織のヒトにじかに相談しちゃったの。
世の中に本当に悪い人達はいないと思うの」

お姉ちゃん、組織の幹部さんで、たくさんお話したのよ。悪の組織さんにも事情があるみたいだし、お話した結果、アナタが二度と戦いに出不来ないようにすればいい、って教えてもらったの」

でも、私の力ではアナタを止められないし、それで、悪の組織さんのアドバイスで、力を手に入れることにしたのよ」

つまり、アナタが正義の味方さんになったみたいに、私も悪の組織さんに改造を受けて、怪人にしてもらったの」

そんなに驚かないで、改造されても、私は、いつまでもアナタのお姉ちゃんよ」

ほら、暴れないで♪」

もう、お姉ちゃんは怪人なんだから、小さな頃みたいに、アナタにめつ、することだってできるのよ」

ふふ、おイタはダメよお。大人しくして、ぎゅ〜って、抱き締めてあげる」

うふ、ちよつとだけ身体に力が入らなくなっちゃったでしょ？」

お姉ちゃん怪人のぎゅつぎゅパワードレインよ幸せな気分で、戦う気力を奪っちゃうの」

せつかく怪人さんにしてもらったんだもの、弟のアナタを幸せにできる力をたくさんつけてもらったの」

でも、さすがは正義の味方さんね。コーヒーにお姉ちゃんの特製ミルク、普通の人なら1日は動けない濃さなのに、もう効き目が薄くなっちゃってる」

ね、まだお姉ちゃんが怪人さんになったの、信じられない？ 特製ミルクの入ったコーヒー美味しかったでしょ」

おっぱい見せるのは、恥ずかしいけど……アナタにわかってもらわないと、ダメよね。こうやって、んしょッ、服をたくし上げて……」

あふう……おっぱいを晒したら、ほら、もう先っぽからミルクが染みだしてきてる……このミルクが、アナタが今飲んだ、お薬♪」

怪人さんになったお姉ちゃんの特製能力よ」

私の母乳を飲んだコは、身体が動かなくなつて、しばらくおねんねしちゃうの」

そのまま、ミルク飲ませてあげると、お姉ちゃんの言うことを聞いてくれる、いい子になるの♪」

アナタにも、お姉ちゃんのおっぱい飲ませてあげる。ほら、見て。根本から、ちよつと搾るだけで、あ、ああ、おっぱいびゅびゅ、で、出ちゃう、あはあ〜ッ」

無理に動かなくても大丈夫よ。お姉ちゃんが勃起した乳首をアナタの口に、ん、んん……押しつけてあげる♡」

『そのまま吸ひ♡』

あ、あ、あ、そうよお、あは、あはあ♡」

濃い洗脳ミルク、いっっぱいちゅば吸いして♡ ん、んう、んう、もっと強く♡ ちゅうちゅう吸って♡」

溢れたミルク、ぢゆるぢゆるつれえ、啜り飲んでーッ♡♡ あく、あくう、左のおっぱいだけじゃなく、右もじゅばじゅば吸いたて♡ あふ、あふう、んふう♡」

左右交互に♡ 好きなだけ♡ お姉ちゃんの母乳、たっぷり飲んで♡ ん、んふ、んふう」

「アナタに母乳飲んでもらうの、感じる、すごく感じちゃう♡ 大好きな弟くんにお乳あげるの私の夢だったの♡ 小さな頃からお世話して。でもミルクはあげられなくて、すごく寂しかった」

でも、今、ん、ん、アナタにおっぱい飲んでもらえて、あは、あはあ……すごく幸せ♡ これからはいっばいっばいアナタにミルクを上げてかわいがってあげる。全部お姉ちゃんにまかせていいのよ」

怪人になって本当に良かったわあ♡」

悪の組織さんに、もっと早く改造してもらえばよかった♡ほら、お姉ちゃんのママミルク♡ もっといっばい召し上がれ♡」

んは、んはあ、んはああ♡」

怪人さんの洗脳ミルクで、正義の味方さんのお仕事は忘れて♡ お姉ちゃんに甘えるだけの、昔の弟くんになって♡ くふ、くふう……本当に一生懸命、ちゅばちゅば、私のおっぱいに吸いついて、本当に可愛い♡」

せっかくだから、頭を撫でてあげるね♪」

「おっぱいをたっぷり飲めて、いいコ、いいコ♪ よしよし、なでなで♪ お姉ちゃんのおっぱい、ちゃーんとちゅば吸いできて、エライわよお」

「お姉ちゃんも、お乳、ちゅーちゅー吸われて、んひ、んひい、気持ち良くなっぴやって……ッ……♡ 気持ちよすぎて、あ、あ、あはああ♡」

乳首の先♡ 開いてきてえ♡ こ、濃いい、おっぱいミルクうう、自分で搾るとぜんぜん違う♡ 吸われるのってとっても気持ちよくてとっても幸せ……はあ、はあ♡ なんて素敵なの、もつとっぱいっばいっばい……」

「お姉ちゃんのミルク美味しい？ 美味しいでしょ。口の中にねっとり広がって、頭の中まであまーくとろけちゃうって評判なのよ。ふふふ、気にする必要はないの力を抜いてお姉ちゃんのことだけを考えて」

男の人っておっきなおっぱいが好きなんですよ？ アナタが子供の頃からお姉ちゃんのおっぱいをいつも見てたの知ってるのよ。ほら、遠慮せずに顔をうずめていいのよ。美味しい洗脳ミルクの詰まったおっぱい、男の人は負けちゃってしょうがないの」

赤ちゃんみたいにお姉ちゃんのミルクを吸っておねだりして、甘えていいの。だって、お姉ちゃんはお姉ちゃんだから」

あはあ……あはああ……アナタも、顔中、ミルクまみれで、お姉ちゃんのおっぱい、そんなに気に入ってくれたんだあ♡ ああ、まだまだ力強い目つきなんだね。普通の人だったら最初のひとくちでトロトロになっちゃうのに。さすが正義の味方だね」

でも、お姉ちゃんの怪人の力も負けてないでしょ？ えへ、アナタのためにいっぱい改造してもらったんだよ。洗脳ミルクもじっくり効いてきてるでしょ？ 強がってもどんどんしびれて動けなくなってる、もつとっぱい飲んでしびれておねんねしよ」

あはは、体の力どんどん抜けて言ってるのわかるよ。いつも傷だらけでみんなを守ってぼろぼろになってた……あ、ふふふ……ん、んしよっ」

何をしてるかって、ナニかなー……ここをこんなに硬くして、あ。やっぱり、おちんちんも元気になるわね♡」

「お姉ちゃんの怪人ミルクはね、アナタの身体を麻痺させて、いい子に洗脳するだけじゃないのよ」
「こうして、おちんちんもおつきさせちゃうのよ♪」

むふ、硬くて、大きなおちんちん、素敵♡ 今まで頑張ってきたご褒美にこっちもお姉ちゃんのおっぱいで優しく溶かしてあげる。弟くんのおちんぽ。はあ、はあ♡ とつても熱い。今までは兄弟だったから我慢してたけど、いいよね。もうおねちゃんは怪人だから、アナタも気にしないで全部お姉ちゃんにゆだねて溶けちゃっていいのよ」

「このまま、大きくなったおちんちんを、両方のおっぱいで、えいつ♡ 挟み込んで・パイ・ズ・リ♡ しちゃうわよ♪」

ほら、すーりすり、すーりすり」

怪人になったお姉ちゃんのおっぱいはどう？ 大きさも、弾力も、柔らかさも、アナタが悦ぶように、最高レベルに調整してもらってるのこのまま身体の力を抜いて……」

「お姉ちゃんのふかふかのおっぱいで、たっくさんお射精しちゃいましょうね」

すーりすり、すりすりすり、すりりりッ♡」

亀さんが硬く張って、切なそうにビクビク震えてるわ♪ 熱くて、硬くて、ああ……素敵な勃起オチンポ♡ 正義の味方さんを長く続けていると、こっちも大きくなっちゃうのかしら♡」

「このまま、おっぱいをむにむにつて、絡めながら、パイズリ攻撃してあげる。我慢しないでいいのよ？ お姉ちゃんに負けて、正義の味方の信念も街のみんなを守る義務感も全部、ぜーんぶとかしてどうにも良くなっちゃうの。素敵でしょ？」

「おちんちんをお胸で、むにむに、むにむに。くふふ、先っぽからお汁が滲んで、カウパーさんがいっぱい溢れてるわね」

ほら、もう出しているのよ。負けて、ミナトお姉ちゃんに、アナタのせーし、いっぱいびゅつびゅして

♡♡ ほらほらほらあ、ほらあッ♡ 負けちゃえ、負けちゃえ♡」

正義の味方なんて忘れて、お姉ちゃんのおっぱいで負けて射精、しちゃお♡ アナタの熱々、敗北ザーメン、思い切りお射精してえ——ッ♡♡」

あんんッ、んぶふう……いつぱいで、出てッ、お姉ちゃんも、お射精チンポ、いただいちゃうわね。あむうう♡ んう、んううッ……私のお口の中で、おちんちんが暴れて、んぐう、んぶぶッ……どろどろのおせーし、たつぷり出されひやつて……」

んん、んく、んくッ♡ んくんくんくッ♡ あふう……男のヒトの精液、飲むの初めてだけど……あ、ああ、美味しい。お口の中から鼻の奥まで、弟くんの匂いでいっぱい」

怪人さんになって、良かったあ。アナタのおせーし、こんなに美味しく頂けるんですもの」

それにお姉ちゃんは悪の組織の怪人さんだから、このままおちんちんのお汁をちゅーちゅー啜つて、お射精と同時に、アナタの正義の力も吸い取っちゃえるのよ♡」

「ごんなふうにな♡ んぢゆる、んぢゆるるるッ♡ んぢゅうう、ぢゅう、ぢゅうううッ、んぢゆるううううッ♡」

「これもアナタのため。お姉ちゃんがおちんちんのエキスを吸いとつて、正義の味方として活動できないようにしてあげるね」

ヒーローの力を失えば、もう戦いに出る必要もなくなるし、危険な目にあわなくてもいいのよ。んふふ。あら……アナタのおちんちん、またおつきしてきてるわね」

さすがは悪の組織に立ち向かう正義の味方さんね、一筋縄ではいかないわね♡ お姉ちゃん、うれしいわ。アナタがそれだけ正義の味方を頑張ってたってことだもの」

私も組織の怪人さんとして、負けないように頑張らなくちや。お口でダメなら、やっぱりあそこよね♡ 仰向けのアナタに、んしょと、こうやって跨がって♡ ほら、ぐっしり濡れた、お姉ちゃんおまんこ、見えるかしら」

「このまま腰を下ろして、んう、んううッ、んっふうううう……アナタのオチンポ、呑みこんじやうからあ……んい、んい、奥に入ってきて、おまんこの中、んいッ、い、痛い、んぐ、んぐうう……いつぱい膨げられてえ……あはああ……」

はふうう……ほら、全部、お姉ちゃんの中に入っちゃった……はあはあッ、どうしたの、び、びっくりした顔して？」

赤いのは、き、気にしないで……お姉ちゃんもせ、セックスは初めてだから怪人さんになっても、初めては弟のアナタにつて決めてたの。だから、処女膜は残してもらって……」

って、お姉ちゃん、変なこと話しちゃったね……ご、ごめんね……」

その怪人さんになったら、ちよつとはしっかりするかもって思ったけど、全然、前のお姉ちゃんのままだよ……ほら、う、動くね。大丈夫、お姉ちゃんは強い怪人さんだから、痛いのもすぐに、あ、ああッ、飛んでいつて、き、気持ちよくなっちゃうのよ♡」

あん♡ あん♡ あんッ♡」

あはあーッ♡ 熱々のせーし、お姉ちゃんの中にいつぱい出てる♡」

まだ三回、腰を振りふりしたただけなのに、出しちゃったのね。でも、お姉ちゃんで気持ち良くなってもらえて、うれしいわ♡ このまま腰、動かしちゃうから、あん、あん、出せるだけ、たっぷり出してー♡」

「アナタの精液、いっぱい吐き出して♡ 正義の味方エネルギー、空っぽにしちゃおうね♪」

お姉ちゃん、悪い怪人さんだから、アナタのヒーローパワーがなくなるまで、沢山射精させちゃうわよ♡」

あ、あ、ああ、そうよ、出してえ、ああー♡ 熱々の濃いスperm、どんどん、びゅっびゅして♡」

あはっ、あはあー♡ あっついお汁、子種汁う、もっと頂戴♡ 出して出して、出してえ、また、またー♡、あー♡」

えい、えい、えいっ、溜まった子種を全部出して、お姉ちゃんのだスケべおまんこで、気持ちよくなりましょうね♡ まだまだ出せるわね♡ ほら出して、出してっ♡」

打ち止めになるまで、せーしミルク射精してえーっ♡」